

文部科学省指定事業
令和4年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」
(地域魅力化型)

研究開発実施報告書

第3年次



令和5(2023)年3月



東京都立八丈高等学校

全日制課程

3年目最終年度の研究開発を終えて

本校は、東京都内地から南に約300km離れた八丈島に設置されている唯一の高等学校です。1948年に東京都立園芸高等学校八丈分校を前身として設立され、1951年に明治大学付属八丈島高等学校を本校普通科に吸収し、同校の敷地、校舎を譲り受けて分教場とした経緯があります。島内中学生の大半の生徒の進学先であり、令和2（2020）年度から文部科学省より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の研究開発校として指定され、八丈島の自然、歴史、文化、産業等についての探究学習を行って、地域の課題解決策を提案し実践する人材、そして、八丈島の島内外から八丈島を支える人材の育成を目指しています。

この研究開発を進めるに当たって、プロジェクト名を「八丈やろごんプロジェクト」としました。「やろごん」というのは、八丈の言葉で「やろう」を意味します。

今年度は指定校3年目最終年度でしたが、一昨年からのコロナ禍においても、教員と地域協働学習実施支援員の方々と毎週一回打ち合わせを行うなど、緊密に連携して、知恵と創意工夫を凝らした取組により、授業が進められています。生徒も、八丈島の豊かな自然、歴史、伝統文化等に触れることや、探究学習の成果を八丈町へ提言出来ることの喜びを感じています。

特に今年度は、島内外のコンソーシアムの皆様の御協力の下、第二回目になる「島民会議」を開催し、本校生徒の学習成果の発表の場とさせていただきました。また、都立立川高等学校やHawaiiのWaiakea高校の御協力によりオンラインを活用するなどして、八丈島の紹介や、学習成果発表、生徒交流が出来たことは大変感謝いたしております。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

また、これまで、全国サミットを開催していただいたことで、全国各地の学校でも本校と同じように、地域との協働事業を進め、試行錯誤しながら奮闘している様子が伺い知れ、とても励みになりました。

結びに、本校では、「地域と協働した探究学習」、「Hawaii大学Hilo校やWaiakea高校との姉妹校交流を通して、多様な文化や異なる生活様式を学ぶ国際交流」、そして「東京都立大学、東京都立産業技術大学院大学との連携」を学校経営、そして特色ある教育活動の3つの柱として「八高魅力化プロジェクト」を推進しております。

「地域と協働した探究学習」は、次年度以降も継続して取り組んでまいります。

今後とも、皆様方からの御指導・御助言をよろしくお願い申し上げます、巻頭の挨拶とさせていただきます。

令和5（2023）年3月31日

東京都立八丈高等学校長

佐藤 俊一

目 次

I. 八丈やろごんプロジェクト ビジュアル資料	1
II. 研究組織体制、運営指導委員会等の実施状況	
1. 研究組織体制	4
2. コンソーシアム協議会実施要項（第7回～第9回）	5
3. 目標設定シート	11
4. 今年度の教育実践の考察	12
5. 高校魅力化評価システムアンケート結果分析	14
6. 研究開発完了報告書	21
III. 八文学Ⅰ	
1. 八文学Ⅰ～Ⅲ年間予定	30
2. 八文学Ⅰ年間授業計画	31
3. 八丈島の自然	32
4. 八丈島の伝統・文化	33
5. 八丈島の歴史	34
6. フェノロジーカレンダーの制作	36
7. フェノロジーカレンダー（令和4年、令和3年、令和2年）	37
8. 八丈島の宝探し	41
IV. 八文学Ⅱ	
1. 年間授業計画	44
2. 島民会議	45
3. 島民会議資料	47
V. 八文学Ⅲ	
1. 年間授業計画	50
2. 個人研究	51
3. 八文学Ⅲ補足資料	52
VI. 学校設定教科・科目	
1. 郷土文化（郷土芸術・郷土文化実習・海洋文化）	58
2. 保健体育総合	62
3. 教養の社会	64
VII. 私たちの八丈島の歴史・伝統・文化等の系統的な学びの全体計画	
1. 系統的な八丈島の地域学習	68
2. 教科横断的な学習シート	70
VIII. 学校の概要	
1. 学校の概要	74
2. 令和2年度入学生教育課程表（普通科）	75
3. 令和3年度入学生教育課程表（普通科）	76
4. 令和4年度入学生教育課程表（普通科）	77
IX. 資料編	
1. 東京都八丈支庁発行「支庁の風」（記事抜粋）	80
2. 東京都八丈町役場発行「広報はちじょう」（記事抜粋）	82
3. Twitter（記事抜粋）	84
4. 探究フォーラム（発表資料）	86
5. 全国サミット（発表資料）	87

東京都教育委員会・東京都立八丈高等学校（全日制）

令和4年度 地域との協働による高等学校改革推進事業（地域魅力化型）

八丈やろごんプロジェクト～八丈島を支える人材を地域とともに育てる～

現状1

生徒アンケート結果より

- 『島に戻ってきたい』 58%
- 『**当事者意識の向上**』 72.5%

将来自分の住んでいる地域に役に立ちたい

※やろごんとは八丈言葉で「やろう」という意味



現状2



運営指導委員会

- 東京都教育委員会
- 八丈町教育委員会
- 長田商店
- 製菓やたけ
- 地域協働学習実施支援員
- 八丈町企画財政課
- あいがえ企画
- 八丈島エコツアーガイド協会

島外コンソーシアム

- 東京都立産業技術大学院
- 東京都立第五商業高等学校
- 東京都立芝商業高等学校
- 東京都立立川高等学校
- 日本エコツアーリズム協会
- フェノロジーカレンダー研究会
- 島嶼コミュニティ学会



八丈学Ⅰ（1単位）

学校設定教科・科目

- 地域の講師による八丈島の基礎学習と『フェノロジーカレンダー』の制作
- 都内小中高等学校における『島外学習』発表

八丈学Ⅱ（1単位）

総合的な探究の時間

- 八丈島の「価値」と「課題」の探究学習
- 生徒による課題解決策の提案
- 『八丈全島民会議』における提案の発表

八丈学Ⅲ（1単位）

総合的な探究の時間

- 2年次の提案をもとにした、地域開発や起業実践
- 『観光甲子園』『マイプロジェクト』等コンテスト応募
- 八丈島を支える取組の実践

【高校入学前の土台】八丈町立小学校・中学校における取組

『八丈言葉』『職場体験』『お魚教室』『海浜清掃』『環境学習』『八丈太鼓』『シヨメ節』等

事業対象学科の生徒数（2022年4月1日時点）

学科	1年	2年	3年	計
普通科	41	39	40	120
併合科				
園芸科	5	2	1	8
家政科	3	2	7	12

ハワイ大学ヒロ校
ワイアケア高等学校（ハワイ）

学校全体の生徒数（2022年4月1日時点）

学科	1年	2年	3年	計
普通科	41	39	40	120
併合科				
園芸科	5	2	1	8
家政科	3	2	7	12

カリキュラム開発等専門家

帝京大学教育学部増淵達夫教授

島内コンソーシアム

- 八丈町
- 東京都八丈支庁
- 東京都教育庁八丈出張所
- 八丈空港ターミナルビル（株）
- 八丈植物公園ビクターセンター

島外コンソーシアム

- 東海汽船(株)
- 八丈島観光協会
- ちよんこめ作業所
- 南海タイムス
- 八丈島エコツアーガイド協会
- 八丈島文化協会
- 八丈高校PTA
- 八丈太鼓よされ会
- 八丈町商工会
- 移住定住者促進協議会
- リードパークリゾート八丈島（株）
- 個人コンソーシアム（新規）

II. 研究組織体制、運営指導委員会等の 実施状況

1. 研究組織体制

○ カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員、ティーチングアシスタント

分類	氏名	所属・職
カリキュラム開発等専門家	増渕 達夫	帝京大学教育学部教育文化学科・教授
地域協働学習実施支援員	佐治 渉	八丈町役場企画財政課・主事
地域協働学習実施支援員	大澤 萌	あいがえ企画・代表
地域協働学習実施支援員	大類 由里子	八丈島エコツアーガイド協会・副代表

○ 運営指導委員会

氏名	所属・職	備考
茂手木 清	八丈町教育委員会・教育長職務代理者	学校教育に専門的知識を有する者
林 薫	八丈町教育委員会・臨時職員	学校教育に専門的知識を有する者
大沢 力	製菓やたけ・社長	地域産業界関係者
長田 隆弘	長田商店・社長	地域産業界関係者

○ コンソーシアム

機関名	機関の代表者名
東京都教育委員会	浜 佳葉子 (教育長)
八丈支庁	池田 大介 (支庁長)
教育庁八丈出張所	永田 史子 (副所長)
東京都立八丈高等学校	佐藤 俊一 (校長)
八丈町役場	山下 奉也 (町長)
八丈町教育委員会	佐藤 誠 (教育長)
八丈島観光協会	田村 真吾 (事務局長)
八丈町商工会	間仁田 聡 (会長)
南海タイムス社	荻田 義之 (社長)
八丈島空港ターミナルビル株式会社	吉田 倫久 (代表取締役専務)
東海汽船株式会社	山崎 潤一 (社長)
東京都立大学総合研究推進機構	堀田 貴嗣 (総合研究推進機構機構長)
文教大学地域連携センター	中島 滋 (学長)
八丈ビジターセンター	高須 英之 (センター長)
フェノロジーカレンダー研究会事務局	田島 幸郎 (事務局長)
八丈太鼓よされ会	奥山 善男 (会長)
八丈島エコツアーガイド協会	大類 由里子 (副代表)
八丈島移住定住促進協議会	内山 江差夫 (理事)
地域おこし協力隊	新井 誠人

2. コンソーシアム協議会実施要項（第7回～第9回）

第7回コンソーシアム協議会実施要項

1 概要

日 時：令和4年4月27日（水）午後3時30分から午後4時30分
場 所：東京都立八丈高等学校・会議室
参 加：本校職員、コンソーシアム、運営指導委員会
内 容：地域協働年間予定、八丈学年間授業計画、令和5年度以降の地域協働事業について
《役割分担》

- ①全体進行【教務部】
- ②コンソーシアム連絡・参加者まとめ【地域協働学習実施支援員】
- ③資料作成【教務部、進路部、授業担当】
- ④司会【教務部】

2 配布資料

- ① 次第
- ② 令和4年度地域協働事業体制について
- ③ 令和4年度地域協働事業年間予定表
- ④ 令和4年度八文学Ⅰ、2・3年生総合的な探究の時間年間授業予定
- ⑤ アンケート ※Forms にても配信

3 司会進行【教務】

15:30～	校長挨拶（5分）
15:35～	東京都教育庁挨拶（5分）
15:40～	令和4年度地域協働事業について（10分） ①校内体制の変更 ②年間予定、八文学Ⅰ、2・3年生総合的な探究の時間年間授業予定
16:50～	令和5年度以降の八丈高校地域協働について（25分）【教務部地域協働担当】
16:15～	カリキュラム開発等専門家による指導・助言（オンライン）（10分）
16:25～	諸連絡（5分）
16:30	閉会

4 各分掌の役割分担

4-1 受付準備、【教務部】

- ・以前のコンソーシアム協議会のアンケートを参考に Forms でアンケートを作成する。
- ・期限は5月7日（金）午後5時とし、締切後にアンケートを集計する。

4-2 会場設営【進路部】 【デジタルサポーター】

- ・Teams により東京都教育庁・カリキュラム開発等専門家はオンラインで参加する。
- ・PCは1台で配信。
- ・配信を Webex のモニターを見れるようにする。

4-3 記録【生活指導部】

- ・オンラインによる参加者の記録
- ・カリキュラム開発等専門家による、指導・助言の記録

5 当日までの動き

- 4/15(金) 運営指導委員会
4/18(月) コンソーシアムの案内をコンソーシアム、運営指導委員会へ連絡【教務部地域協働事務局】
4/19(火) 管理職打ち合わせ
4/25(月) 事前打ち合わせ（15:30～ 会議室）
4/27(水) コンソーシアム協議会当日

【参加者】

東京都教育庁	指導部高等学校教育指導課統括指導主事	天野 大輔(オンライン)
東京都教育庁	指導部高等学校教育指導課指導主事	坂本 泰裕(オンライン)
東京都教育庁	指導部高等学校教育指導課指導主事	阿部 惚接(オンライン)
東京都教育庁八丈出張所	副所長	永田 史子
東京都教育庁八丈出張所	指導主事	納 太郎
カリキュラム開発等専門家 運営指導委員会	帝京大学教育学部教育文化学科教授	増渕 達夫(オンライン)
運営指導委員会	八丈町教育委員会	林 薫
協働学習実施支援員	長田商店	長田 隆弘
協働学習実施支援員	八丈町役場企画財政課	佐治 渉
協働学習実施支援員	八丈島エコツアーガイド協会副代表	大類 由里子
島内コンソーシアム	あいがえ企画	大澤 萌
島内コンソーシアム	八丈島空港ターミナルビル株式会社	宮口 和美
島内コンソーシアム	八丈植物公園ビジターセンター 担当係長・センター長	高須 英之
島内コンソーシアム	八丈島移住定住促進協議会理事	内山 江差夫
島内コンソーシアム	八丈島移住定住促進協議会	高橋 晃雄
島内コンソーシアム	リードホテル&リゾート株式会社 代表取締役	歌川 真哉
島内コンソーシアム	地域おこし協力隊	新井 誠人
個人コンソーシアム	八丈レモンフェス	千葉 将太
個人コンソーシアム		浅沼 碧海

【八丈高校】

東京都立八丈高等学校	校長	佐藤 俊一
東京都立八丈高等学校	副校長	町谷 光博
東京都立八丈高等学校	教務部主任	高嶋 幸子
東京都立八丈高等学校	教務部・地域協働担当・地域協働事務局	木村 嘉尚
東京都立八丈高等学校	教務部・地域協働担当・地域協働事務局	神部 智子
東京都立八丈高等学校	八丈学Ⅰ担当	田崎 公理 遠藤 弘
東京都立八丈高等学校	2年総合的な探究の時間(八丈学Ⅱ) 担当	高萩 慶太
東京都立八丈高等学校	3年総合的な探究の時間(八丈学Ⅲ) 担当	鈴木 陽子 加藤 玲奈 高岡 達弥 杉山 翔
東京都立八丈高等学校	教員	

第8回コンソーシアム協議会実施要項

1 目的

- ・島民会議の実施方法と内容を運営指導委員、コンソーシアムと共有する。

2 日時・場所

日時：令和4年11月25日（金）午後3時30分から午後4時30分まで

場所：東京都立八丈高等学校・会議室

3 時程 司会進行【教務】

- 15:30～ 校長挨拶（5分）
- 15:35～ 東京都教育庁挨拶（5分）
- 15:40～ 意見交換「島民会議について」【教務部地域協働担当】
 - ①「島民会議」の実施方法説明
 - ②意見交換
- 16:15～ カリキュラム開発等専門家による指導・助言（10分）
- 16:25～ 諸連絡（5分）
- 16:30 閉会

4 内容

- ①島民会議の実施方法についての説明
 - ・時程、流れ
 - ・テーマ、概要について
 - ・島民会議グランドルールについて
- ②意見交換
- ③カリキュラム開発等専門家による指導・助言

5 役割分担

内容	担当者（敬称略）	備考
全体進行	教務部	
司会進行	教務部	
会場設営	進路部、デジタルサポーター	Teamsにより指導部、増淵教授はオンラインで参加する。 ※設定注意 巡回経路なし、自動レコーダー。 ※配信先が複数ある場合は、スペックの高い進路部のPCを借りて配信。 Webexのモニターで配信を見られるようにする。
受付	事務局、地域協働学習実施支援員	
職員玄関掲示物、来校者受付票準備	事務局、地域協働学習実施支援員	
受付名簿チェック表作成	事務局	
職員玄関受付、案内、誘導	事務局、地域協働学習実施支援員	
資料作成	教務部、進路部、授業担当	
「実施要項」作成	事務局	
「参加依頼」作成	事務局	
「次第」作成	事務局	
「実施要項」起案	事務局	
「参加依頼」起案	事務局	
「次第」起案	事務局	
「ご案内メール」QRコードあり→PDFで作成	事務局	
参加者集約	事務局	
アンケート作成（Formsと手書き）	八丈学Ⅱ	以前のコンソーシアム協議会のものを参考に作成

アンケート集計	八文学Ⅱ	12月2日(金)午後5時を期限とし、締切後に集計
記録(文書)	生活指導部	オンラインによる参加者の記録 カリキュラム開発等専門家による、指導・助言の記録
記録(写真)	教務部、地域協働学習実施支援員	
施設予約	事務局	

6 配布資料

- ①次第
- ②参加者名簿
- ③プレ島民会議 記録
- ④プレ島民会議 成果と課題
- ⑤令和4年度島民会議実施要項
- ⑥テーマ・概要
- ⑦スライド資料
- ⑧アンケート ※オンライン(Forms)と手書き回答

7 参加者名簿(別紙のとおり)

8 当日までの動き

- 10/24(月) コンソーシアムへ案内・参加申し込みを連絡【地域協働事務局】
- 11/10(木) 第5回運営指導委員会
- 11/14(月) 企画調整会議でコンソーシアム実施要項確定版を提示【教務部】
- 11/15(火) 管理職打ち合わせ
- 11/17(木) 資料をコンソーシアムへ連絡【地域協働事務局】
- 11/16(水) 事前打ち合わせ(15:30～ 会議室)
- 11/25(金) コンソーシアム協議会当日

第9回コンソーシアム協議会実施要項

1 目的

- ・地域協働事業の3年間の成果・課題・今後の展望について運営指導委員、コンソーシアムと共有する。

2 日時・場所

日時：令和5年2月3日（金）午後3時30分から午後4時30分まで

場所：東京都立八丈高等学校・会議室

3 時程 司会進行【教務】

- 15:30～ 校長挨拶（5分）
- 15:35～ 東京都教育庁挨拶（5分）（オンライン）
- 15:40～ 意見交換 テーマ「本校の3年間の地域協働事業の成果検証について」
【地域協働学習実施支援員】
 - ① 3年間の地域協働事業の成果・課題・今後の展望についての説明（10分）
 - ② 協議・意見交換（20分協議、5分共有）
- 16:15～ カリキュラム開発等専門家による指導・助言（10分）
- 16:25～ 諸連絡（5分）
- 16:30 閉会

4 内容

- ①3年間の地域協働事業の成果・課題・今後の展望について
- ②意見交換
成果・課題・今後の展望について
- ③カリキュラム開発等専門家による指導・助言

5 役割分担

内容	担当者（敬称略）	備考
全体進行	教務部	
司会進行	教務部	
協議・意見交換	地域協働学習実施支援員	地域協働事業の成果・課題・今後の展望について。協議。
会場設営	進路部 デジタルサポーター	Teamsにより指導部はオンラインで参加する。 ※ 設定注意 巡回経路なし、自動レコーダー。 ※配信先が複数ある場合は、スペックの高い進路部のPCを借りて配信。 Webexのモニターで配信を見られるようにする。
受付	事務局、地域協働学習実施支援員	
職員玄関掲示物、来校者受付票準備	事務局、地域協働学習実施支援員	
受付名簿チェック表作成	事務局	
職員玄関受付、案内、誘導	事務局、地域協働学習実施支援員	
資料作成	教務部	
「実施要項」作成	事務局	
「参加依頼」作成	事務局	
「次第」作成	事務局	
「実施要項」起案	事務局	
「参加依頼」起案	事務局	
「次第」起案	事務局	
「ご案内メール」QRコードあり→PDFで作成	事務局	
参加者集約	事務局	
アンケート作成（Formsと手書き）	事務局	以前のコンソーシアム協議会のものを参考に作成
アンケート集計	地域協働学習実施支援	2月10日（金）午後5時を期限とし、締切後に集

	員	計
記録（文書）	生活指導部	オンラインによる参加者の記録 カリキュラム開発等専門家による、指導・助言の記録
記録（写真）	教務部、地域協働学習実施支援員	
施設予約	事務局	

6 配布資料

- ①次第
- ②参加者名簿
- ③高校魅力化評価システム結果（結果、総合所見）
- ④地域協働事業の成果・課題・今後の展望（全国サミットスライド資料、東京都探究フォーラムポスター）
- ⑤島民会議の総括
- ⑥アンケート ※オンライン（Forms）と手書き回答

7 参加者名簿（別紙のとおり）

8 当日までの動き

- 1/20(金) 第6回運営指導委員会
- 1/23(月) コンソーシアムへ案内・参加申し込みを連絡【地域協働事務局】
管理職打ち合わせ
- 2/3(金) コンソーシアム協議会当日

3. 目標設定シート

【別紙様式5】

ふりがな	とうきょうとりつはちじょうこうとうがっこう	指定期間	令和2～4
学校名	東京都立八丈高等学校		

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値（年度）
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
全校アンケートの「島に戻って仕事をしたい」と答える生徒を増やす。						単位： %
a	本事業対象生徒：		44	43	47	80%（4年度）
	本事業対象生徒以外：	20	20	20	50	60%（4年度）
目標設定の考え方：本校生徒は島に戻りたいと考える生徒は半数以上だが、多くは「戻りたいが仕事がない」と答える。これは生徒の「八丈で仕事をする具体的なイメージがない」と、自分から仕事をみつけていく」という意識が身につけていないことが原因である。本事業で島に対する「当事者意識」を高めることで、改善していくと考えている。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)						
卒業生に対して卒業後2年目のアンケートにおいて、島への就職を視野にいれている者を増やす。						単位： %
b	本事業対象生徒：		—	—	—	80%（4年度）
	本事業対象生徒以外：	5	10	—	—	—
目標設定の考え方：定着状況は、八丈の外を経験した生徒への意識調査でわかると考える。成果目標をはかるために、八丈町を連携してアンケートを行う。また、アンケートから島へのUターンを紹介するきっかけとなる。						
(その他本構想における取組の達成目標)						
八丈町立中学校からの都立八丈高等学校への進学率を上げる。						単位：
c	本事業対象生徒：		92	90	75	95%（4年度）
	本事業対象生徒以外：	70	85	100	—	—
目標設定の考え方：八丈島には町立中学校3校がある。中学生は島外の高校か八丈高校を選択する。ここ数年は島外を目指す生徒が多かったが、今年から少しずつ八丈高校を選ぶ生徒が増えている。さらに、八丈高等学校から地域興しをすることで、中学校へアピールをして、まず島内の中学生の確実な獲得を目指す。その後は島外の中学生の獲得に目を向ける。						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値（年度）
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
地域開発に関するコンテスト受賞数。（観光甲子園、マイプロジェクト、高校生CMコンテスト）						単位： 件
a		0	1	0	0	5回（令和4年度）
目標設定の考え方：社会科の教員を中心に、地域創生のためのコンテストに参加した実績がある。その経験を生かして、八丈大学の授業を中心として校内でコンテストに取り組む。外側からの評価を受けたことのない生徒の挑戦する機会として参加する。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)						
島外学習での学校訪問数・テレビ会議を利用した交流の回数。						単位： 回
b		5	5	7	6	5回（令和4年度）
目標設定の考え方：具体的に生徒自身が発信をする機会を多く持つ。テレビ会議は昨年から生徒会を中心に三宅高校や大島高校、夕張高校との交流に役立っている。さらに授業で活用することで、多くの学校や自治体に八丈島をアピールする機会とした。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						
八丈島フェノロジーカレンダー設置場所。						単位： 箇所
c		0	0	15	20	20箇所（令和4年度）
目標設定の考え方：作成したフェノロジーカレンダーは、島外学習で都内学校で説明する資料とする。完成した物は、八丈空港を始め、底土港、島の各公民館、伊豆諸島の各地、都内公民館、などへの設置を検討している。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）							
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	目標値（年度）	
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標)							
全校アンケート調査にある「島を盛り上げていきたい」と答える生徒を増やす。						単位： %	
a		10	18	45	64	62	60%（4年度）
目標設定の考え方：八丈島によくなってほしいと考えている生徒は半数以上になるが、自分から何か動きかけようとする生徒は少ない。全島民会議や実際の地域開発を通して、地域開発を自分でできること、地域開発のおもしろさを知ることで、島を変えたいと考える生徒の育成を目指す。							
(その他本構想における取組の具体的指標)							
「全島民会議」の参加者数の増加						単位： 人	
d		200	200	—	140	200	350人（4年度）
目標設定の考え方：昨年度まで開催した「八高生版議会」を改良し、町と共同開催の全島民が参加する会議を開催する。これは、他地域で行われている。フォーラムやシンポジウムを参考に、全島民で行い、全島民で八丈町をどのような町にするかを考える機会とする。多くの地域住民の理解が得られれば、参加者は確実に増えると考えている。							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
全校生徒数（人）	146	144	156	127	139
本事業対象生徒数			40	78	120
本事業対象外生徒数			116	49	19

4. 今年度の教育実践の考察

(1) 本事業の目的について

本事業では、以下の二つの目標を掲げている。

- ① 八丈島に戻ってきて、地域を盛り上げる生徒を育てる。
- ② 八丈島の外から、島の良さを発信する生徒を育てる。

そのため、研究開発目標を以下のとおりとしている。

- 「八丈島を支える人材を地域とともに育てる」
(グランドデザインに基づいた育成すべき生徒の将来像)
- ・目標の実現のために、自主的・主体的に学び続け、自分で道を切り拓ける人物
 - ・社会の変化に対応できる広い視野をもち、率先して動く自立した人物
 - ・地域、歴史、自然、産業、伝統文化に対する深い理解をもち、誇りに思える人物

(2) 今年度の取組について

ア 八文学Ⅰ（1学年）

1学期は八丈島の自然、歴史、文化、産業に関する地域の方からのレクチャーやフィールドワークを通して、八丈島に関する理解を深めるとともに、島の価値や課題を見いださせるために、探究のサイクル（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）を用いて探究の基礎学習を行った。また、主体的に八丈島の地域課題に気づかせるため、2学期にフェノロジーカレンダーを作成した。

3学期には、作成したフェノロジーカレンダーを活用して、オンラインによる都内高等学校との交流、および探究活動の普及を図る、訪問発表を行った。年間を通して地域と向き合い、自己理解や地域の特性・課題に気づく力を育成した。

イ 八文学Ⅱ（2学年）

八文学Ⅱでは、地域の実態を踏まえたより現実的な探究学習を行い、八丈島の課題解決策の提案を行う島民会議を実施した。1学期には、1学年で行った八丈島に関する基礎的な学びを基に学びを深めるとともに、テーマ設定、フィールドワークによる探究活動を実施した。2学期には、前半にプレ島民会議を実施し、地域に中間報告を行うことで、探究内容に磨きをかけた。また、探究活動を行う過程において、生徒の主権者意識を高めさせる工夫を行った。島民会議では、地域と学校が一体となって、八丈島の未来について考え、地域課題の解決策の提案の場とすることができた。地域課題の解決を図ることを通じて、自己の生き方や島の未来を考えることで、課題発見・解決能力や将来設計能力を育成した。

3学期は、島民会議に参加した島民からの意見を基に個別研究の実験において、課題の実証や実現の可能性を検証し、八文学Ⅲの探究活動へつなげた。

ウ 八文学Ⅲ（3学年）

八文学Ⅲでは、八文学Ⅰ、八文学Ⅱでの2年間の経験をもとに、自己の将来、八丈島の将来を考え、地域を活性化させる方策について実践を行った。1学期には、自己の将来、八丈島の将来に関する考察を深める工夫を実施し、テーマ設定、実験、フィールドワーク等を行った。また、後半には普通科のみでなく、園芸科・家政科との合同中間発表を行い、探究内容に磨きをかけた。2学期には、探究活動のまとめを行い、地域への報告会を行った。個人探究において地域と学校が一体となり、八丈島の将来、開発などを考える場となった。3学期では、3年間の探究学習の経験を後輩へ引き継ぐ活動を行った。3年間の探究学習を通し、自己の将来、八丈島の将来について深く考え、後世は伝える活動を行い、八丈島を支える人材の育成をすることができた。

（3）今年度の課題と次年度に向けた改善点について

ア 課題

今年度、八文学Ⅱにおいて島民会議、八文学Ⅲにおいて探究学習報告会を実施し、これまでの成果を外部に伝えることができ、探究活動の課題等に気づくことができた。一方で、探究活動における課題設定や調査方法、データを整理・分析するなど、探究を深めるより一層の工夫が必要である。また、普通科教員がほぼ全員八文学の探究学習に関わることにより、教職員全体の本事業に対する理解は深まってきたが、担当を中心とした全教員でさらに組織的に取り組むことが課題である。コンソーシアムの連携先の本事業への関わり方が様々であったため、事業終了後の持続可能な組織体制を構築する必要がある。

イ 改善点

来年度は、時間割を工夫することにより、地域へのフィールドワーク・実習の機会を今年度以上に確保したい。また、探究課題について、発表活動を複数回実施することにより、地域の専門家等の助言を定期的に受けられるよう計画することで、生徒の課題意識や理解を深めていく。さらに、全教員で八文学に関して共通認識・理解をつくり、組織的に実践するために、月に1回程度の校内研修などを実施し、共通認識を更に高めていく必要がある。その他、地域協働事業を高校のみだけでなく、地域協働学習実施支援員を中心とした、地域が持続可能かつ主体的に運営する仕組み作りが必要である。

5. 高校魅力化評価システムアンケート結果の分析

(1) 総括表について

特に「主体性」「協働性」に関する指標が、前回調査時から30.6%と上昇しており、「自主的に調べものや取材を行う」「学校外のいろいろな人に話を聞きに行く」の各項目について、回答が昨年度よりも上昇している。

(2) 学習活動について

今年度は全国的に、with コロナの状況に入ったことで、フィールドワークなど学校外で学ぶ活動を積極的に実施した。そのため、「学校外のいろいろな人に話を聞く」学習活動が大きく伸び、その伸びの分、他地域平均も上回る結果となった。特に2年生、3年生でこの値が大きく伸びた点は、コロナ禍で様々なことを抑制せざるを得なかった学年に対するリカバリーが図られているという点でも特筆される傾向であると考ええる。

他方で現1年生は、一昨年入学生（＝現3年生）が1年生だった頃よりもこうした学習の頻度が低くなっているため、一見地域と協働した活動は低めかと思いきや、「社会性に関わる学習活動」の値は非常に伸びた。地域に関する学習が、単なる「地域に出る学習」だけでなく、校内での学びにも浸透されているのではと考える。

(3) 学習環境について

学習活動と同傾向で、社会性に関する学習環境が他地域と比べても高く推移している。一方で、1年生については、「33 挑戦している人がいる」「30 人の挑戦に関わらせてもらえる」といった主体性に属する環境の肯定的回答が、他学年と比べて低い。「21 挑戦を応援する風土」は他学年と比較しても遜色なくあるようなので、実際に動き出す人が不足していると考えられる。何かきっかけになる挑戦者の具体例があると、一気に見通しが開ける可能性があるため、次年度の課題としたい。

(4) 生徒の自己認識について

昨年と同じく、全体的な傾向として、現2年生の1年→2年の推移でマイナスが、現3年生の2年→3年の推移でプラスの傾向が目立つ。この点に関して、いわゆる「中だるみ」の傾向か、カリキュラム構成が要因であるか検討が必要である。

1年生の社会参画意識や学習意欲が高いが、先に学習環境で見た、挑戦する人がいるという回答者の少なさと合わせると、挑戦することができる環境の課題が残る。

(5) 大人向け調査について

「31 地域・社会との協働を通して、業務負担感の軽減につながっている。」が非常に低い値となっている。本事業を通して、地域協働を軸とした業務の精選ができていないと考える。今後、地域社会を通して、学校がどのような体制になるのかが焦点となる。

(6) 全体について

地域との協働による学びが正常化し、かつ、単に学校外に出ていく、というだけではない「地域に関する学び」のあり方が確立されつつあるのではないかと考える。一方で、教職員へのアンケート結果を見ると、地域との協働に関する意識は一枚岩ではない印象も受け、今後の課題である。

Portfolio of sustainable education and community

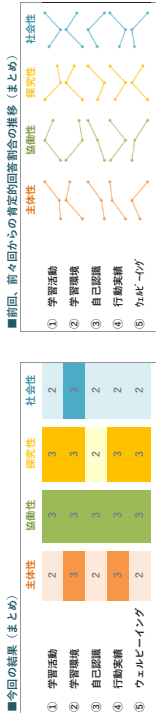
高校魅力化評価システム 組織診断ポータル

高校名	東京都立八丈高等学校												
年度	2022年度												
回答者数	生徒・学生	124	(内訳)	1年生	41	2年生	37	3年生	46	4年生	0	5年生	0
	(併年度)	91	(内訳)	1年生	22	2年生	37	3年生	32	4年生	0	5年生	0
大人	(内訳)	41	(内訳)	教職員	28	大人	28	(内訳)	教職員	16			

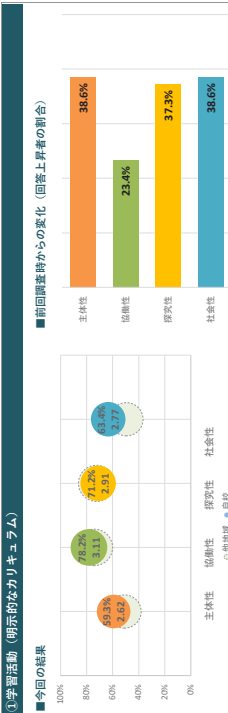
【MEMO】

教育目標、育てたい生徒像など

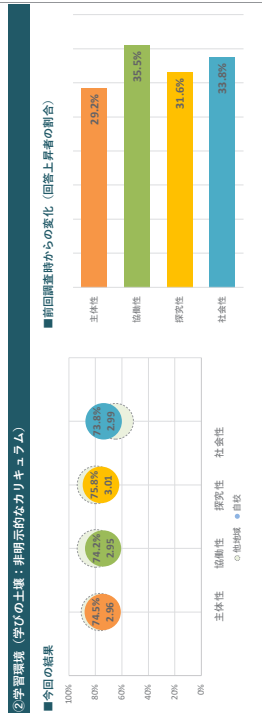
Summary 総括表



※前回は前年度より1.50~4.5%増、2.65%~4.80%増、3.20%以上4.80%増、非受動型もグラフに反映されるため取り注意。



※上段の数値 (％：縦軸) が肯定的回答割合、下段の数値が平均値



【学習環境】 [学習環境] 読み取り・検討の視点

- ・ 自校の学びや環境、それを推進・変革するための、協働のあり方は？
- ・ 普段から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは？その成果は出ているか？
- ・ 協働を支えるコーディネート体制として、どのような役割が必要か？

How to read 結果の読み取り方

このポータルフォリオでは、以下の5側面、4領域、3軸により、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることが出来ます。

5つの側面を
 4つの領域から
 3つの軸で

→ 各校・地域の状況を、①学習環境、②学習活動、③生徒の自己認識、④生徒の行動実践、⑤ウェルビーイングの5つから把握しています。

→ 各側面を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力に関する領域に分類しています。

→ 上記のデータを「時間軸 (前年度からの伸び)」「学年軸 (学年による違い)」「地域軸 (他地域との比較)」の3つの軸で整理しています。

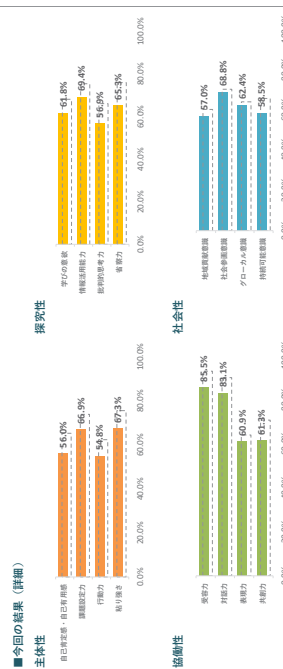
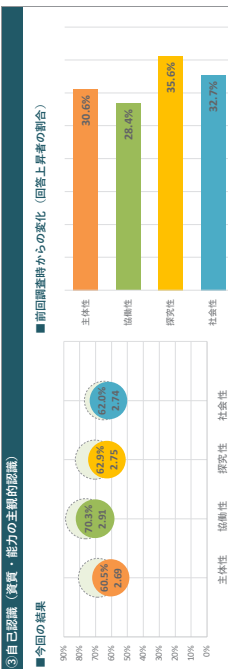
結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

→ 各項目で「4、表はてはまる」「3、どちらかといえはあてはまる」という肯定的回答をした割合

→ 「あてはまらない=1」「あてはまる=4」の回答の平均値

→ 同じ機会に調査を実施した他校の回答の平均値

→ (個人IDで紐づけを行い、複数回調査を実施した割合に表示) 前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、各回答者に占める割合 (回答上昇者の割合)



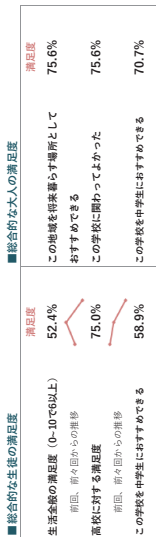
※点線は他地域における肯定的回答割合

【生徒の自己認識】 読み取り・検討の視点

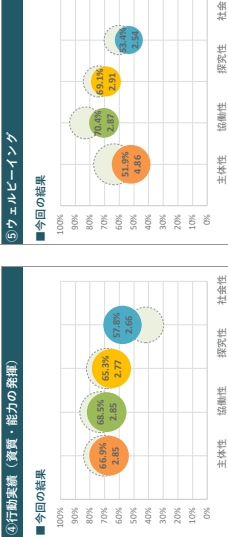
・ 普段から意識している、育てたい生徒像や、身につけさせたい力に関する指標の結果は？

・ 前回からの変化は？その要因として、何が考えられますか？ (学習活動、学習環境と関連付けて)

・ 今後、意識して伸ばしていきたいと考える力は？そのために必要な「次の一手」は？



※前年度もグラフに反映されるため取り注意。



【ウェルビーイング】 読み取り・検討の視点

・ 学習環境や大人のあり方との関係は？

・ 生徒の資質能力との関連は？

・ ウェルビーイングの観点から学校目標に
 どう位置づけしていくか？

Details 詳細結果

① 学習活動 (明示的なカリキュラム)

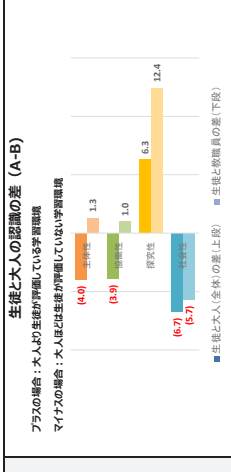
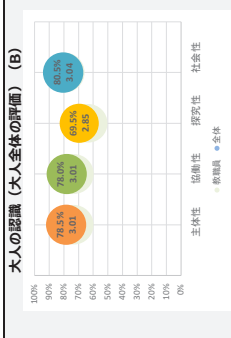
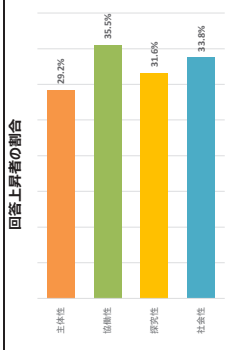
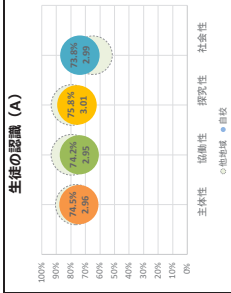
学習活動	全校		1年生 (2022入学生)		2年生 (2021入学生)		3年生 (2020入学生)		4年生 (2019入学生)	
	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)
全体	59.3%	9.27	53.7%	3.66	62.2%	12.16	63.0%	13.31	63.5%	13.31
10pt以上の増加	73.4%	5.26	75.6%	7.43	67.6%	-0.61	76.1%	13.92	81.5%	8.44
0~10ptの増加	45.2%	13.29	31.7%	-0.11	56.8%	24.94	47.8%	12.69	62.0%	-2.17
減少	78.2%	-1.99	72.4%	-9.46	86.5%	-6.14	85.5%	8.03	89.1%	10.02
主体性に関わる学習活動	88.7%	0.80	90.2%	-5.21	86.5%	-8.97	85.5%	8.05	89.1%	8.05
5 自主的に調べものや取材を行う	88.7%	-2.50	90.2%	-0.67	81.1%	-9.83	93.5%	4.29	93.5%	2.30
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	57.3%	-4.28	36.6%	-22.51	59.5%	0.37	73.9%	11.75	73.9%	26.85
協働性に関わる学習活動	71.2%	1.94	70.1%	5.35	68.2%	3.47	69.3%	9.59	74.5%	-1.28
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	62.9%	-5.23	61.0%	-2.66	62.2%	-1.47	65.2%	-2.35	65.2%	-11.25
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	81.5%	4.09	80.5%	1.31	86.5%	18.30	78.3%	5.29	78.3%	-4.09
9 活動、学習内容について大人 (教員や地域の大人) と話し合う	76.6%	6.73	75.6%	11.97	64.9%	1.23	87.0%	13.98	87.0%	7.54
探究性に関わる学習活動	63.7%	2.17	63.4%	-0.22	59.5%	-4.18	67.4%	21.45	67.4%	2.69
10 自分の考えを文章や図表にまとめる	63.4%	7.03	64.2%	9.68	57.7%	3.11	44.4%	67.4%	67.4%	5.63
11 話し合った内容を発表する	70.2%	9.72	73.2%	14.08	62.2%	3.07	73.9%	17.16	73.9%	6.27
12 活動、学習のまとめを発表する	70.2%	11.92	73.2%	23.17	59.5%	9.46	52.4%	16.63	52.4%	11.38
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	50.0%	-0.55	46.3%	-8.20	51.4%	-3.19	38.1%	17.04	52.2%	-0.77
14 地域の魅力や資源について考える										
15 地域の課題の解決方法について考える										
16 日本や世界の課題の解決方法について考える										

※3年生、4年生の回帰上昇率(1pt未満は「-」で記載した方が好)



② 学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）

10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ○ 減少	生徒の認識 (A)		大人の認識 (A)		回者上昇者の割合		大人の認識 (大人全体の評価) (B)		生徒と大人の認識の差 (A-B)		生徒と大人の認識の差 (A-B)	大人問題項目	
	割合(%)	昨年比の差 差(p)	昨年比の差 差(p)	1年生	2年生	3年生	4年生	全体	割合(%)	昨年比の差 差(p)			割合(%)
●	74.5%	-2.43	-2.26	29.2%	69.5%	80.2%	-	78.5%	20.87	73.2%	14.46	-4.0pt	5 失敗を恐らずに挑戦することができる
○	71.8%	1.44	-4.65	29.2%	70.7%	80.4%	-	73.2%	26.74	67.9%	24.11	-1.4pt	13 挑戦する人に対して、応援することができる
○	83.1%	-5.95	-7.22	22.8%	82.9%	87.0%	-	80.5%	5.49	75.0%	0.00	2.6pt	6 目標や当事者意識を持って挑戦している人がある
○	78.2%	-5.29	-2.67	29.8%	68.3%	83.8%	-	85.4%	35.37	82.1%	32.14	-7.1pt	16 立場や役割を超えて協働することができる
○	57.3%	-0.98	2.49	28.1%	58.5%	51.4%	-	-	-	-	-	-	7 自身の挑戦に、周囲を巻き込むしている
○	63.7%	3.27	1.14	36.8%	48.8%	64.9%	-	63.4%	24.13	53.6%	9.82	0.3pt	14 誰かが何かに挑戦しようと決まるとき、手を差し伸べている
○	83.1%	-7.05	-5.81	26.3%	75.6%	87.0%	-	80.5%	12.63	75.0%	6.25	2.6pt	22 子どもの自己決定を尊重できる
○	83.9%	-	-2.17	-	75.6%	83.8%	-	87.8%	-	-	-	-3.9pt	-
○	75.0%	-	0.80	-	75.6%	73.0%	-	-	-	-	-	-	-
○	74.2%	0.29	-5.39	35.5%	71.3%	70.9%	-	78.0%	16.44	73.2%	16.96	-3.9pt	8 人と違うこと、異なる意見を尊重している
○	71.0%	-0.46	-8.63	29.8%	70.7%	67.6%	-	75.6%	22.04	67.9%	17.86	-4.6pt	9 あらゆる自分の尊重される雰囲気がある
○	73.4%	-1.34	-8.78	31.6%	70.7%	70.3%	-	80.5%	9.06	78.6%	16.07	-7.1pt	15 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある
○	79.0%	-0.09	-4.53	36.8%	75.6%	75.7%	-	80.5%	12.63	78.6%	16.07	-1.5pt	17 本音を言葉だけでなく話し合える雰囲気がある
○	73.4%	3.06	0.39	43.9%	68.3%	70.3%	-	75.6%	22.04	67.9%	17.86	-2.2pt	18 立場や役割を超えて協働することができる
○	75.8%	-1.67	-3.76	31.6%	71.3%	75.7%	-	69.5%	25.76	63.4%	19.64	6.3pt	10 本音を言葉だけでなく話し合えることができる
○	75.0%	2.47	-6.86	38.6%	65.9%	84.8%	-	58.5%	29.97	42.9%	30.36	16.5pt	11 地域に、将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる
○	79.8%	-7.42	-3.22	28.1%	73.2%	73.0%	-	61.0%	21.69	50.0%	6.25	14.0pt	17 生徒に対してつづいての話を聞き、考える手助けがされている
○	73.4%	-0.24	0.51	35.1%	65.9%	78.4%	-	73.2%	37.46	71.4%	8.04	-5.5pt	18 お互いに思いかけあふ機会がある
○	73.8%	-3.96	9.02	33.8%	70.7%	75.7%	-	80.5%	18.88	79.5%	18.53	-6.7pt	21 地域で生徒を育てるという意識を持っている
○	73.4%	-15.62	-1.45	22.8%	73.2%	67.6%	-	85.4%	13.94	82.1%	19.64	-8.8pt	19 地域から大切にされている雰囲気を感じる
○	76.6%	-6.90	3.49	35.1%	68.3%	86.5%	-	82.9%	15.07	82.1%	13.39	-6.3pt	20 地域の人や専門家などと一緒に協働している機会がある
○	75.8%	1.08	19.63	36.8%	70.7%	82.6%	-	87.8%	27.09	85.7%	23.21	-12.0pt	12 自分の暮らしや地域を外の視点で考える機会を持っている
○	69.4%	5.62	14.42	40.4%	70.7%	63.0%	-	65.9%	19.43	67.9%	17.86	1.5pt	20 自分の暮らしや地域を外の視点で考える機会を持っている

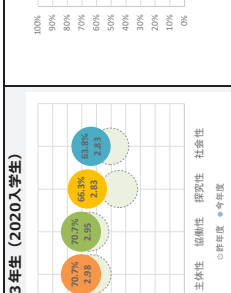
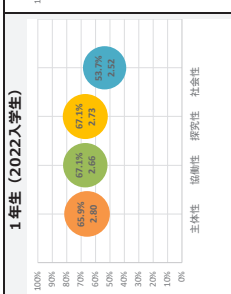


③ 生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）

全体	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）			4年生（2019入学生）		
	割合(%)	変化(p)	地域差(p)	割合(%)	変化(p)	地域差(p)	割合(%)	変化(p)	地域差(p)	割合(%)	変化(p)	地域差(p)	割合(%)	変化(p)	地域差(p)
60.5%	4.75	-8.13	3.34	61.3%	-1.66	3.34	56.4%	-6.62	19.0%	63.0%	13.62	5.06	-	-	-
56.0%	6.05	-9.22	8.03	61.0%	15.52	8.03	45.9%	0.49	21.4%	59.8%	9.78	6.84	-	-	-
65.3%	-1.71	-10.42	3.08	70.7%	11.64	3.08	54.1%	-5.04	28.5%	69.6%	2.00	1.92	-	-	-
46.8%	13.81	-8.03	12.98	51.2%	19.40	12.98	37.8%	6.02	14.3%	50.0%	17.57	11.76	-	-	-
66.9%	1.00	-6.94	-11.42	65.9%	-11.42	-4.73	67.6%	-9.71	23.8%	67.4%	10.63	-3.20	-	-	-
66.9%	1.00	-6.94	-11.42	65.9%	-11.42	-4.73	67.6%	-9.71	23.8%	67.4%	10.63	-3.20	-	-	-
54.8%	8.68	-7.53	-1.00	54.9%	-8.76	-1.00	47.3%	-16.34	14.3%	60.9%	25.73	4.99	-	-	-
54.0%	12.27	-7.60	-7.54	56.1%	-7.54	0.22	45.9%	-17.69	19.0%	58.7%	34.37	2.81	-	-	-
55.6%	5.10	-7.46	-9.98	53.7%	-9.98	-2.22	48.6%	-14.99	9.5%	63.0%	17.10	7.16	-	-	-
67.3%	-1.78	-9.86	-6.87	68.3%	-4.43	3.59	67.6%	-5.16	23.8%	69.6%	2.00	4.86	-	-	-
68.5%	4.59	-6.60	-9.31	63.4%	-9.31	10.47	73.0%	0.25	14.3%	63.0%	11.69	10.10	-	-	-
70.3%	5.27	-5.97	71.2%	71.2%	2.13	8.28	66.5%	-2.60	21.0%	72.6%	14.23	9.67	-	-	-
85.5%	-3.53	-7.42	87.8%	87.8%	-3.10	8.39	81.1%	-9.83	9.5%	87.0%	3.17	7.54	-	-	-
85.5%	-3.53	-7.42	87.8%	87.8%	-3.10	8.39	81.1%	-9.83	9.5%	87.0%	3.17	7.54	-	-	-
83.1%	1.75	-6.92	-12.53	82.9%	6.46	6.46	81.1%	-14.37	28.6%	84.8%	9.11	8.31	-	-	-
60.9%	12.54	-3.05	10.98	61.0%	9.51	5.41	54.4%	5.41	23.8%	65.2%	21.97	13.75	-	-	-
63.7%	8.76	-5.79	6.43	61.0%	6.43	8.03	56.8%	2.21	23.8%	71.7%	20.39	18.80	-	-	-
58.1%	16.31	-0.31	15.52	61.0%	10.98	10.98	54.1%	8.60	23.8%	58.7%	23.56	8.70	-	-	-
61.3%	3.05	-9.40	4.32	63.4%	4.32	7.53	59.5%	0.37	19.0%	60.9%	14.92	4.99	-	-	-
61.3%	3.05	-9.40	4.32	63.4%	4.32	7.53	59.5%	0.37	19.0%	60.9%	14.92	4.99	-	-	-
62.9%	4.25	-7.57	3.07	65.5%	3.07	1.09	60.5%	-1.58	31.3%	62.5%	8.13	-1.22	-	-	-
61.8%	5.78	-6.34	5.14	64.2%	5.14	1.48	59.5%	0.37	36.5%	61.6%	10.24	-1.15	-	-	-
59.7%	10.23	-11.65	11.31	65.9%	18.79	18.79	62.2%	7.62	52.4%	52.2%	8.93	5.12	-	-	-
54.0%	12.27	-1.99	10.31	51.2%	-10.55	13.14	54.1%	42.9%	42.9%	15.98	15.98	-5.24	-	-	-
71.8%	-5.15	-8.77	-6.21	75.6%	-6.21	-3.80	62.2%	-19.66	14.3%	76.1%	5.82	-3.32	-	-	-
69.4%	1.77	-6.14	-1.11	67.1%	-1.11	-6.46	71.6%	3.44	31.0%	69.6%	4.70	-3.96	-	-	-
74.2%	2.76	-8.11	0.44	73.2%	0.44	2.95	73.9%	3.33	33.3%	73.9%	6.35	-5.50	-	-	-
64.5%	0.78	-4.16	-2.66	61.0%	-2.66	-6.67	67.6%	3.93	28.6%	65.2%	3.06	-2.43	-	-	-
56.9%	7.28	-9.28	-3.66	61.0%	-3.66	13.99	52.7%	-12.16	23.8%	56.5%	15.92	13.30	-	-	-
43.5%	7.28	-8.65	-3.66	46.3%	-3.66	13.99	37.8%	-12.16	23.8%	45.7%	15.92	13.30	-	-	-
70.2%	-	-9.90	-	75.6%	-	-	67.6%	-	-	67.4%	-	-	-	-	-
65.3%	1.59	-10.70	11.97	75.6%	2.08	2.08	56.8%	-6.88	23.8%	63.0%	0.88	-10.49	-	-	-
65.3%	1.59	-10.70	11.97	75.6%	2.08	2.08	56.8%	-6.88	23.8%	63.0%	0.88	-10.49	-	-	-
62.0%	-1.99	-2.98	4.26	62.5%	-1.38	-1.38	50.4%	-7.90	19.9%	70.8%	13.99	6.85	-	-	-
57.0%	-3.45	-3.19	-0.67	56.9%	0.05	0.05	43.2%	-14.33	20.6%	68.1%	23.07	11.25	-	-	-
47.6%	8.02	-2.12	7.21	39.0%	7.21	-5.09	37.8%	6.02	23.8%	63.0%	44.12	18.93	-	-	-
60.5%	-8.75	-3.23	-2.66	61.0%	-2.66	5.09	45.9%	5.09	23.8%	71.7%	17.69	15.86	-	-	-
62.9%	-9.62	-4.21	-6.54	70.7%	-6.54	0.14	70.7%	-31.33	14.3%	69.6%	7.40	-1.02	-	-	-
68.8%	3.98	-1.38	16.19	70.7%	3.08	3.08	55.9%	1.31	25.4%	77.5%	18.08	9.89	-	-	-
51.6%	6.56	-3.13	14.86	51.2%	14.86	1.22	37.8%	-9.58	28.6%	63.0%	19.80	13.04	-	-	-
71.0%	0.64	-0.90	11.97	75.6%	2.08	2.08	56.8%	-6.88	23.8%	80.4%	18.27	6.91	-	-	-
83.9%	4.75	-0.11	21.73	85.4%	5.95	5.95	75.7%	12.04	19.0%	89.1%	16.16	9.72	-	-	-
62.4%	-2.84	-1.59	1.18	61.8%	-5.86	-5.86	55.0%	-5.65	17.5%	68.8%	7.58	1.19	-	-	-
70.2%	-3.47	-1.33	7.43	75.6%	7.43	2.08	51.4%	-16.83	19.0%	80.4%	10.16	6.91	-	-	-
70.2%	-5.66	-2.65	-2.33	65.9%	-2.33	-16.50	73.0%	4.79	23.8%	71.7%	1.47	-10.61	-	-	-
46.8%	0.62	-0.79	-1.55	43.9%	-1.55	-3.16	45.9%	-4.91	9.5%	54.3%	11.10	7.29	-	-	-
58.5%	-7.47	-7.16	-1.61	59.8%	-1.61	-3.48	45.9%	-15.42	14.3%	67.4%	3.88	4.16	-	-	-
51.6%	-7.73	-6.72	-0.89	53.7%	-0.89	0.72	35.1%	-19.41	14.3%	63.0%	11.69	10.10	-	-	-
65.3%	-7.20	-7.60	-2.33	65.9%	-2.33	-7.68	56.8%	-11.43	14.3%	71.7%	-3.94	-1.79	-	-	-

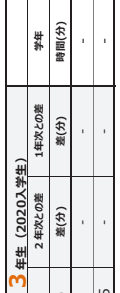
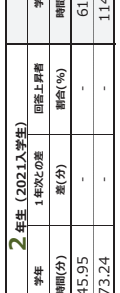
④ 生徒の行動実績（資質・能力の発揮）

10pt以上の増加 ● 0～10ptの増加 ○ 減少	全校		1年生（2022入学生）		2年生（2021入学生）		3年生（2020入学生）		4年生（2019入学生）	
	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)
主体性に関わる行動	65.9%	0.45	65.9%	2.22	63.5%	-0.12	70.7%	7.14	70.7%	4.48
74 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	70.2%	-4.56	63.4%	-18.40	75.7%	-6.14	71.7%	4.17	71.7%	1.15
74 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	63.7%	5.47	68.3%	22.84	51.4%	5.90	69.6%	10.11	78.0%	7.80
協働性に関わる行動	68.5%	2.06	67.1%	-5.65	67.6%	-5.16	70.7%	5.79	70.7%	1.53
72 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	68.5%	0.42	68.3%	0.11	67.6%	-0.61	69.6%	2.00	69.6%	1.92
73 友人などから、意見やアドバイスを求めた	68.5%	3.71	65.9%	-11.42	67.6%	-9.71	71.7%	9.58	71.7%	1.15
探究性に関わる行動	65.3%	13.12	67.1%	7.98	62.2%	3.07	66.3%	21.71	66.3%	6.01
75 授業でなぜか分からないことや疑問を持つ、その疑問を自分で考えたり調べたりした	66.9%	13.09	65.9%	6.76	64.9%	5.77	69.6%	23.62	69.6%	13.68
75 公式やまめを習得時、その根拠を自分で考えたり調べたりした	63.7%	13.16	68.3%	9.20	59.5%	0.37	63.0%	19.80	63.0%	-1.66
社会性に関わる行動	57.8%	7.25	53.7%	3.66	55.0%	4.95	63.8%	13.32	63.8%	2.98
69 いま住んでいる地域の行事に参加した	54.0%	10.08	53.7%	12.75	51.4%	10.44	56.5%	5.17	56.5%	9.46
70 地域社会などでボランティア活動に参加した	49.2%	18.42	41.5%	5.10	54.1%	17.69	52.2%	25.15	52.2%	-6.65
77 先生、保護者以外の地域の大人と、おこなう会話や交流をした	70.2%	-6.76	65.9%	-6.87	59.5%	-13.27	82.6%	9.64	82.6%	6.14



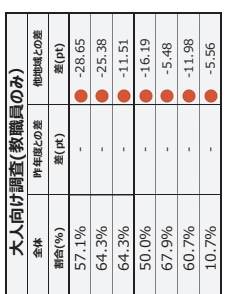
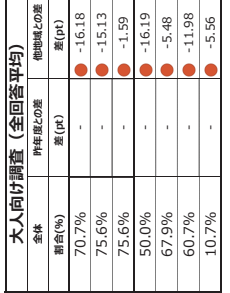
⑤ 学習・その他

91 平均的な学習時間【平日】	全校		1年生（2022入学生）		2年生（2021入学生）		3年生（2020入学生）		4年生（2019入学生）	
	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)
91 平均的な学習時間【平日】	54.92	-	55.61	-	45.95	-	61.52	-	-	-
92 平均的な学習時間【休日】	94.92	-	92.68	-	73.24	-	114.35	-	-	-



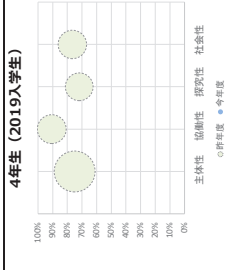
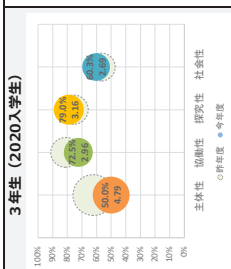
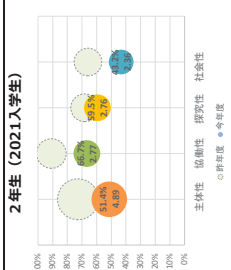
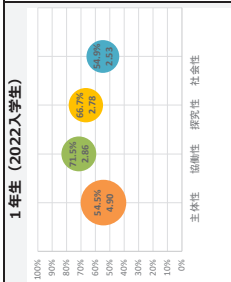
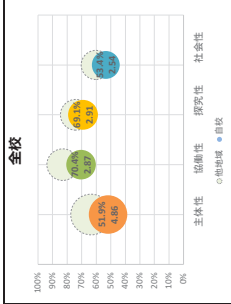
⑥ 大人向け調査（教職員のみ）

25 この学校を中學生におすすめできる	全校		1年生（2022入学生）		2年生（2021入学生）		3年生（2020入学生）		4年生（2019入学生）	
	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)
25 この学校を中學生におすすめできる	70.7%	-16.18	57.1%	-	51.4%	-	63.0%	-	-	-
26 この学校に関わってよかったと思う	75.6%	-15.13	64.3%	-	48.6%	-1.35	60.9%	17.63	-	-
27 この地域を、将来暮らし場所としておすすめできる	75.6%	-1.59	64.3%	-	48.6%	3.19	65.2%	8.46	-	-
28 【教職員の分】地域・社会との協働を通して、授業の質の向上につながっている	50.0%	-16.19	50.0%	-	54.1%	13.14	58.7%	31.67	-	-
29 【教職員の分】地域・社会との協働を通して、自身の資質・能力の向上につながっている	67.9%	-	67.9%	-	54.1%	-	-	-	-	-
30 【教職員の分】地域・社会との協働を通して、学習意欲が高まった生徒がいる	60.7%	-11.98	60.7%	-	-	-	-	-	-	-
31 【教職員の分】地域・社会との協働を通して、業務負担感の軽減につながっている	10.7%	-5.56	10.7%	-	-	-	-	-	-	-



⑦ 生徒のウェルビーイング

	全校		1年生 (2022入学生)		2年生 (2021入学生)		3年生 (2020入学生)		4年生 (2019入学生)	
	割合 (%)	変化 (pt)	学年割合 (%)	学年割合 (%)	学年割合 (%)	学年割合 (%)	学年割合 (%)	学年割合 (%)	学年割合 (%)	学年割合 (%)
● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少	51.9%	4.86	54.5%	4.30	51.4%	18.67	50.0%	9.99	-	-
● 主体性に関わるウェルビーイング	51.9%	4.86	54.5%	4.30	51.4%	18.67	50.0%	9.99	-	-
81 今の生活全般に対する満足度 (0~10で評価: 6以上の割合)	52.4%	-16.81	51.2%	-21.51	54.1%	-18.67	52.2%	-9.99	-	-
82 親の存在に対する満足度 (0~10で評価: 6以上の割合)	56.5%	-16.81	63.4%	-21.51	54.1%	-18.67	52.2%	-9.99	-	-
83 現在の日常生活に不安や心配事がない	46.8%	-	48.8%	-	45.9%	-	45.7%	-	-	-
● 協働性に関わるウェルビーイング	70.4%	-11.81	71.5%	-17.74	66.7%	-26.04	72.5%	3.70	-	-
66 この学校に入ってよかったと思う	75.0%	-11.81	73.2%	-17.74	64.9%	-26.04	84.8%	3.70	-	-
84 学校の一日が楽しんでいる	71.0%	-	73.2%	-	73.0%	-	67.4%	-	-	-
85 大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	65.3%	-	68.3%	-	62.2%	-	65.2%	-	-	-
● 探究性に関わるウェルビーイング	69.1%	-7.20	66.7%	-2.33	59.5%	-11.43	79.0%	-3.94	-	-
68 【再掲】自分の将来について明確な希望を持っている	65.3%	-7.20	65.9%	-2.33	56.8%	-11.43	71.7%	-3.94	-	-
86 自分の将来についての見通し(将来についてやりたい)を持っている	73.4%	-	68.3%	-	64.9%	-	84.8%	-	-	-
87 自分の将来に向けて大切なことを実行している	68.5%	-	65.9%	-	56.8%	-	80.4%	-	-	-
● 社会性に関わるウェルビーイング	53.4%	-8.68	54.9%	-3.71	43.2%	-25.37	60.3%	9.55	-	-
58 【再掲】将来、自分の住んでいる地域で役に立ちたい	62.9%	-9.62	70.7%	-6.54	45.9%	-31.33	69.6%	7.40	-	-
60 【再掲】地域文化や暮らしを、自分の手で未来に伝えたい	51.6%	-7.73	53.7%	-0.89	35.1%	-19.41	63.0%	11.69	-	-
88 この地域を、将来暮らし場所としておすすめできる	62.1%	-	61.0%	-	54.1%	-	69.6%	-	-	-
89 日本の将来は明るいと思う	37.1%	-	34.1%	-	37.8%	-	39.1%	-	-	-



6. 研究開発完了報告書

(1) 事業の実施期間

令和4年 4月 1日（契約締結日）～ 令和5年 3月31日

2 指定校名・類型

学校名 東京都立八丈高等学校
学校長名 佐藤 俊一
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

八丈やろごんプロジェクト

4 研究開発概要

【研究開発目標】

「八丈島を支える人材を地域とともに育てる」

【ランドデザインに基づいた育成すべき生徒の将来像】

- 目標の実現のために、自主的・主体的に学び続け、自分で道を切り拓ける人物
- 社会の変化に対応できる広い視野をもち、率先して動く自立した人物
- 地域、歴史、自然、産業、伝統文化に対する深い理解をもち、誇りに思える人物

【八文学Ⅰ（1年次）】

1学期に八丈島の自然、歴史、文化、産業に関するレクチャー・フィールドワークを通して、八丈島に関する理解を深めるとともに、島の価値や課題を見出させるために、探究のサイクルを用いて探究の基礎学習を行う。また2学期にフェノロジーカレンダーの作成を通して、八丈島の地域課題に気づかせる取組を実施する。

3学期には、作成したフェノロジーカレンダーを活用して、島内小中学校及び八丈島に来島した学校への成果発表、島外への訪問発表、オンラインによる都内小中学校への生徒による発表活動及び都内高等学校との交流を行う。年間を通して地域と向き合い、自己理解や地域の特性・課題に気づく力を育成する。

【八文学Ⅱ（2年次）】

令和3年度に開講する八文学Ⅱでは、地域の実態を踏まえたより現実的な探究学習を行い、解決策の提案を行う島民会議を実施する。1学期には、1年次に行った八丈島に関する基礎的な学びを基に、学びを深めるとともに、生徒の主権者意識を高めさせる工夫を行う。2学期には、他県のまちづくりシンポジウム等を参考に地域と学校が一体となって、八丈島の未来について考え、地域課題の解決策の提案の場として「島民会議」を開催する。2学期後半から3学期にかけて、島民会議で出された課題を基に個別研究の実験やフィールドワークを行い、課題の実証や実現の可能性を検証する。地域課題の解決を図ることを通じて、自己の生き方や島の未来を考えることで、課題発見・解決能力や将来設計能力を育成する。

【八文学Ⅲ（3年次）】

令和4年度に開講する八文学Ⅲでは、地域を活性化させ、島内外に八丈島の魅力を発信するための実践的な力を身に付けさせ、持続可能で、実現可能な行動計画を立て実践する。1・2学期を通じて、観光甲子園や田舎力甲子園などのコンテストに応募し、具体的な行動計画を発信する。年間を通して、課題を解決するための実践力を養い、自己実現のための具体的な行動と地域の将来のための具体策を発表することにより、地域探究学習の成果を広く伝える力を育成する。

これら3年間の研究開発の結果、研究開発目標及びグランドデザインに基づいた育成すべき生徒の将来像の素地を確実に身に付けさせることを指定期間終了時のゴールとする。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
茂手木 清	八丈町教育委員会・教育長職務代理者	学校教育に専門的知識を有する者
林 薫	八丈町教育委員会・臨時職員	学校教育に専門的知識を有する者
大沢 力	製菓やたけ・社長	地域産業界関係者
長田 隆弘	長田商店・社長	地域産業界関係者

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
東京都教育委員会	浜 佳葉子（教育長）
八丈支庁	池野 大介（支庁長）
教育庁八丈出張所	永田 史子（副所長）
東京都立八丈高等学校	佐藤 俊一（校長）
八丈町役場	山下 奉也（町長）
八丈町教育委員会	佐藤 誠（教育長）
八丈島観光協会	田村 真吾（事務局長）
八丈町商工会	間仁田 聡（会長）
八丈島空港ターミナルビル株式会社	吉田 倫久（代表取締役専務）
東海汽船株式会社	山崎 潤一（社長）
東京都立大学総合研究推進機構	柴田 徹（URA・産学連携専門部長）
文教大学地域連携センター	野島 正也（学長）
八丈ビジターセンター	高須 英之（センター長）
フェノロジーカレンダー研究会事務局	田島 幸郎
八丈太鼓よされ会	奥山 善男
八丈島エコツアーガイド協会	大類 由里子
八丈島移住定住促進協議会	内山 江差夫

8 カリキュラム開発専門家, 海外交流アドバイザー, 地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	増渕 達夫	帝京大学教育学部教育文化学科教授	委嘱
地域協働学習支援員	佐治 渉	八丈町役場企画財政課	委嘱
地域協働学習支援員	大類 由里子	八丈島エコツアーガイド協会・副代表	委嘱
地域協働学習支援員	大澤 萌	あいがえ企画・代表	委嘱

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①学校視察 学校訪問								5日 ★	21日 ★			
②運営指導 委員会出席 (オンライン)	15日 ★			25日 ★		26日 ★	7日 ★	10日 ★		20日 ★		2日 ★
③定例会 (オンライン)	20日 ★					29日 ★		16日 ★	13日 ★	24日 ★		
③コンソーシ アム協議会 出席 (オンライン)	27日 ★							25日 ★			3日 ★	

(2) 実績の説明

① 学校視察・学校訪問

[内容]

校内体制の構築、島民会議検証、PTA への地域協働への地域協働事業への協力についてについて指導・助言を行った。

[成果]

担当教員から直接、学校や研究の状況を把握し、適切に指導・助言を行った。PTA から地域協働事業への理解が得られた。

② 運営指導委員会 (オンライン参加 7回)

[内容]

運営指導委員とともに、校内体制の構築、発表資料作成、島民会議実施方法、島外学校との連携について指導・助言を行った。

[成果]

担当教員・運営指導委員から直接学校や研究の状況を把握し、適切に指導・助言を行った。

③ 定例会出席(オンライン参加5回)

[内容]

校内体制の構築、発表資料作成、島民会議実施方法、島外学校との連携について指導・助言を行った。

〔成果〕

佐藤俊一校長から直接学校や研究の状況を把握し、適切に指導・助言を行った。

④ コンソーシアム協議会(オンライン参加3回)

〔内容〕

島民会議実施方法、振り返り、次年度へ向けて指導・助言を行った。

〔成果〕

担当教員、地域協働学習実施支援員、コンソーシアムから研究の状況を把握し、適切に指導・助言を行った。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【八丈学Ⅰ】 八丈島の自然、歴史、文化、 産業等地域課題学習	→											
【八丈学Ⅰ】 フェノロジーカレンダーの制作を 通じた探究学習				→								
【八丈学Ⅰ】 企業調査を通じた探究学習								→				
【八丈学Ⅰ】 探究学習を基にした 発表活動										→		
【八丈学Ⅱ】 島民会議での八丈島の社会課 題に対する、政策提言に向け ての探究学習	→											
【八丈学Ⅱ】 島民会議での意見交換に向け ての事前準備、事後整理			→						島民 会議			
【八丈学Ⅱ】 八丈島を発信するための実践活 動の事前準備										→		
【八丈学Ⅲ】 八丈島を発信するための実践活 動を通じた探究学習	→											
【八丈学Ⅲ】 3年間の探究学習n経験を基に した、後輩への指導、助言									→			

(2) 実績の説明

① 八丈島の自然、歴史、文化、産業等の地域課題学習

[内容]

地域人材の活用により、八丈島の自然、歴史、文化、伝統、産業等を学び、島の価値や魅力について知る学習を実施した。

- ・八丈町教育委員会 茂手木 清氏 林 薫 氏（7月12日 八丈方言について）

[成果]

八丈島の自然、歴史、文化、伝統、産業について学び、価値について再確認した。

② フェノロジーカレンダーの制作を通じた探究学習

[内容]

島の価値や魅力についての学習を基に、八丈島のイベント、動植物、草花、野菜、海産物等の項目ごとに実施月や収穫の時期など季節ごとに分類・整理し、季節の暦カレンダーであるフェノロジーカレンダーを制作した。

- ・文教大学 海津ゆりえ 教授（6月16日、11月18日）
- ・株式会社 アートポスト 滝口貴美子 氏（6月16日、11月18日、11月29日、12月19日、2月10日、3月16日）

[成果]

調査した内容を整理、まとめることにより、島の価値について気づき、深めることができた。

③ 企業調査を通じた探究学習

[内容]

島の各職業の1年間の流れをフェノロジーカレンダーと比較することにより、自然と人の関係性について理解する。

- ・12月19日 地域企業（めゆ工房、八丈ビジターセンター、長田商店、八丈町給食センター）

[成果]

八丈島のさまざまな職業と八丈島の自然との関わりについて気づき、フェノロジーカレンダー制作に生かすことができた。

④ 探究活動を基にした発表活動

[内容]

フェノロジーカレンダーについて発表活動を実施した。

- ・1月27日 1年生の発表に対する、2年生からの指導・助言
- ・3月17日 都立立川高等学校とのオンライン成果発表交流会
- ・3月18日 多摩・島しょサミットにおいて成果発表会

[成果]

成果を伝えることができ、探究活動の課題等をさらに気づくことができた。

⑤ 島民会議での八丈島の社会課題等に対する、政策提言に向けての探究学習

[内容]

島民会議に向けて、八丈島の地域課題及びその解決策について、探究活動を実施した。

- ・コンソーシアムによる生徒への指導・助言（随時）

- ・地域へのフィールドワーク（随時）

〔成果〕

八丈島の社会課題等に気づき、解決策を深めることができた。また、主権者意識を育むことができた。

⑥ 島民会議での意見交換に向けての事前準備、事後整理

〔内容〕

島民会議に向けての事前・事後指導を行った。

- ・10月7日 プレ島民会議（島内コンソーシアムによる指導・助言）
- ・11月25日 第8回コンソーシアム協議会（島内コンソーシアムによる指導・助言）
- ・12月21日 午前：島民会議、
午後：島民会議振り返り（生徒による振り返り、及び文部科学省、東京都教育庁、カリキュラム開発等専門家による指導助言）

〔成果〕

成果を伝えることができ、探究活動の課題等をさらに気づくことができた。

⑦ 八丈島を発信するための実践活動の事前準備（プレ個人探求）

〔内容〕

八文学Ⅲに向けて、八丈島を発信するための実践活動の探究課題を設定した。

〔成果〕

多くの分野に視野が広がり、探究活動だけではなく、進路活動にも関連付け、将来設計能力を育むことができた。

⑧ 八丈島を発信するための実践活動を通じた探究学習（個人探求）

〔内容〕

自らの将来や進路に関連した、八丈島に関する個人課題探究を設定し探究活動を実施した。

〔成果〕

- ・7月19日 普通科・併合科合同中間発表会
- ・11月25日 八文学Ⅲ成果発表会（島内コンソーシアムによる指導・助言）

⑨ 3年間の探究学習の経験を基にした後輩への指導・助言

〔内容〕

探究活動の経験をもとに、1学年・2学年の生徒に対して、指導・助言を行った。

〔成果〕

- ・7月14日 八文学Ⅱ（島民会議）中間発表指導・助言
- ・12月20日 八文学Ⅱ（島民会議）事前発表練習
- ・12月21日 島民会議補助（記録、設営等）
- ・1月20日、27日 八文学Ⅱプレ個人探究指導

1 1 目標の進捗状況, 成果, 評価

管理機関、カリキュラム開発等専門家及び島内コンソーシアムと連携を図りながら、教務部及び授業担当者のメンバーが検証を行い、PDCAサイクルに基づいて改善を進めた。

(1) 本構想において実現する成果目標の設定 (アウトカム)

① 卒業時に生徒が修得すべき具体的能力の定着状況

a 全校アンケートの「島に戻って仕事をしたい」と考える生徒を増やす。

3年次目標 80%、3年次実績 47% (高校魅力化評価システムアンケートより)

② 高校卒業後の地元への定着状況

b 卒業生に対する卒業後2年目のアンケートにおいて、島への就職を視野に入れている者を増やす。

3年次目標 80%、3年次実績 調査未実施

③ その他本構想における取組の達成目標

c 八丈町立中学校からの都立八丈高等学校への進学率を上げる。

3年次目標 95%、3年次実績 75% (2月末日時点)

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標 (アウトプット)

① 地域課題研究又は発展的な実践の実施状況

a 地域開発に関するコンテスト受賞数

3年次目標 2、3年次実績 0

② 普及・促進に向けた取組の実施状況

管理機関での発表 2回、地域での広報誌掲載 14回、HP更新回数 9回

Twitter更新回数 84回

③ 島外学習での学校訪問数・テレビ会議を利用した交流の回数

3年次目標 16回、3年次実績 5回 (1回の交流規模を大きくしたため)

④ その他本構想における取組の達成目標

b フェノロジーカレンダー設置場所

3年次目標 30か所、3年次は20か所設置予定

(3) 地域人材を育成する地域としての活動指標 (アウトプット)

① 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況

a 全校アンケート調査にある「島を盛り上げていきたい」と答える生徒を増やす。

初年度実績 45%、2年次実績 64%、3年次実績 62%

(高校魅力化評価システムアンケート結果より)

② その他本構想における取組の達成目標

b 全島民会議の参加者数の増加

3年次目標 350、3年次実績 200 (新型コロナウイルス感染症の予防と拡大防止による人数制限をしたため)

<添付資料> 目標設定シート

1 2 次年度以降の課題及び改善点

[課題]

- ① 教職員全体の地域協働に対する理解は深まってきたが、未だ共通理解・共通認識が不足している。
- ② コンソーシアムについて、本事業への関わりに温度差があった。
- ③ 探究活動について、フィールドワークの実施回数が少なかった。
- ④ 令和5年度以降の地域協働事業の持続可能な財源の確保ができなかった。
- ⑤ 地域と協働した探究学習の継続性のある組織体制を確立できなかった。

[改善点]

- ① 教職員への研究を学期に1回実施する。
- ② コンソーシアムの精査と、PTA等保護者の参加を促す。
- ③ フィールドワークの回数の増加や、課外活動等を利用する。
- ④ 地域との円滑な関係を築く。また、地域協働学習実施支援員を中心とした、地域団体を設立する。
- ⑤ 校内の組織に地域を協働した探究学習の担当者を増加する。また、校務内容を精査する。

III. 八丈学 I

1. 令和4年度『八文学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』年間予定

月日		予定	八文学Ⅲ	八文学Ⅱ	八文学Ⅰ
4月	15日	第1回運営指導委員会	合同授業	合同授業	合同授業
	22日		個人探究(調査)	オリエンテーション	「小・中の振り返り」
5月	6日		個人探究(調査)	間を見つける①	自然①
	13日		個人探究(調査)	間を見つける②	文化・歴史①
	27日		個人探究(グループ発表)	グループ探究(テーマ設定①)	文化・歴史②
6月	10日	3年修学旅行		グループ探究(テーマ設定②)	自然② フィールドワーク
	17日		個人探究(グループ発表)	グループ探究(調査、資料作成①)	フェノロジーカレンダーとは
	18日	40分短縮(授業公開)	個人探究(グループ発表)	グループ探究(調査、資料作成②)	企業インターン準備
7月	未定(12~14日)	2時間(40分短縮、特別時程)	個人探究(追加調査)	グループ探究(調査、資料作成③)	企業インターン①
	未定(19日)	4時間(40分短縮、特別時程)	個人探究発表会(学年全体→学校全体?)	中間発表	宝探し①
	25日	第2回運営指導委員会			
8月	課題		個人探究(レポート作成)	グループ探究(調査)	調査・フィールドワーク
9月	2日	1, 2年模試	個人探究(レポート作成)		
	9日		個人探究(レポート作成)	グループ探究(調査、資料作成④)	宝探し②
	14日	木曜日→金曜授業	八高祭準備	グループ探究(調査、資料作成⑤)	宝探し③
	18日 19日	八高祭	八高祭(個人探究発表会の様子を動画で発表)	八高祭(調査の中間発表PTを掲示)	八高祭
	30日		個人探究(レポート完成)	グループ探究(調査、資料作成⑥)	企業インターン②
10月	7日	プレ島民会議	プレ島民会議参加	プレ島民会議	プレ島民会議見学
	21日	学校運営協議連絡会			
	28日	1年生移動教室	島民会議補助/レポート完成	プレ島民会議振り返り	
11月	4日		島民会議補助/レポート完成	グループ探究(調査、資料作成⑦)	企業インターン③
	10日	第4回運営指導委員会			
	11日		島民会議補助/レポート完成	グループ探究(調査、資料作成⑧)	中間報告
	18日		島民会議補助/レポート完成	グループ探究(調査、資料作成⑨)	宝探し④
	25日	第8回コンソーシアム協議会	島民会議補助/レポート完成	中間発表(2年、3年)	宝探し⑤
12月	9日		島民会議補助	グループ探究(調査、資料作成⑩)	フェノロジーカレンダー
	未定(16日)	2時間(40分短縮、特別時程)	島民会議補助	グループ探究(調査、資料作成⑪)	フェノロジーカレンダー
	未定(20日)	2時間(40分短縮、特別時程)		島民会議打ち合わせ	フェノロジーカレンダー
	21日	島民会議	『島民会議』	『島民会議』	『島民会議』
1月	13日			プレ個人探究オリエンテーション	フェノロジーカレンダー
	20日	第6回運営指導委員会	八文学のまとめ	プレ個人探究オリエンテーション	中間報告・企業インターン④
2月	3日	2年生修学旅行 第9回コンソーシアム協議会		プレ個人探究テーマ設定①	
	10日			プレ個人探究テーマ設定③	フェノロジーカレンダー
	17日			多摩・島嶼サミット準備	フェノロジーカレンダー
3月	未定(16日)			多摩・島嶼サミット準備	多摩・島嶼サミット準備
	17日	多摩・島嶼サミット		多摩・島嶼サミット(オンライン交流会)	多摩・島嶼サミット(オンライン交流会)

2. 令和4年度『八文学Ⅰ』（年間授業計画）

				概要	詳細
4月	15日	第1回運営指導委員会	八丈を知る	合同授業	2, 3年生から八文学について説明を受ける
	22日			「小・中の振り返り」	小学校、中学校で行なってきた八丈島の学習について振り返りをする。
5月	6日			自然①	八丈島の自然について
	13日			文化・歴史①	八丈島の文化について
	27日			文化・歴史②	八丈島の歴史について
6月	10日			自然② フィールドワーク	ビジターセンターへフィールドワーク
	17日			フェノロジーカレンダーとは	フェノロジーカレンダーについて説明を受ける。
	18日			企業インターン準備	八丈島の職業について知る
7月	未定			企業インターン①	八丈島の職業について知る
	未定			宝探し①	八丈島の価値について理解する。
8月	課題		調査・フィールドワーク	フェノロジーカレンダーの素材を探すために、各所へフィールドワーク	
9月	9日		宝探し②	八高祭のためにデータを整理する。	
	18日 19日	八高祭	八高祭		
	26日	第3回運営指導委員会	企業インターン②	八丈島の職業についてフェノロジーカレンダーとの関わりについて理解する。	
10月	7日	プレ島民会議	プレ島民会議見学	プレ島民会議に見学者として参加する。	
11月	4日		企業インターン③	八丈島の職業についてフェノロジーカレンダーとの関わりについて理解する。	
	11日		中間報告	フェノロジーカレンダーの情報をまとめる	
	18日		宝探し④	フェノロジーカレンダーの素材を探すために、各所へフィールドワーク	
	25日	第8回コンソーシアム協議会	宝探し⑤	フェノロジーカレンダーの素材を探すために、各所へフィールドワーク	
12月	未定		フェノロジーカレンダー	フェノロジーカレンダーの情報をまとめる。	
	未定		フェノロジーカレンダー	フェノロジーカレンダーの情報をまとめる。	
	21日	島民会議	『島民会議』	2年生の島民会議の補助、議論の参観	
1月	13日		フェノロジーカレンダー	フェノロジーカレンダーの情報をまとめる。	
	20日	第6回運営指導委員会	中間報告	フェノロジーカレンダーの中間報告を行い、先輩からアドバイスを受ける。	
2月	3日		フェノロジーカレンダー	フェノロジーカレンダーの情報をまとめる。	
	9日	第9回コンソーシアム協議会	フェノロジーカレンダー	フェノロジーカレンダーの情報をまとめる。	
	10日		フェノロジーカレンダー	フェノロジーカレンダーの情報をまとめる。	
	17日		フェノロジーカレンダー	フェノロジーカレンダー仕上げ	
	未定		オンライン交流会準備	オンライン交流会の準備をする。	
	17日	立川高校交流会	オンライン交流会	オンライン交流会で1年間の探究の成果を発表する。	
			フェノロジーカレンダー		

3. 八丈島の自然

【実施日時】

本年度は実施なし（令和3年度実施）

【目的】

- ◆ ガイドウォークを通して八丈島の生物を知り、独自の固有性を獲得した過程や、固有種の特徴について知ることで、八丈島の価値についての理解を深める。



植物公園内体験学習

【講師】

- ◆ 八丈植物公園ビジターセンター センター長 高須 英之 様

【内容】

- ◆ 体験学習の内容
 - ① 八丈島の成り立ち（地形的な特徴も含めて）を知る。
 - ② 生き物に触れる。島の生き物を知る。
 - ③ どのような生き物が「渡ってきたのか」を知る。



ビジターセンター内での講習会の様子

【生徒の感想】

- ◆ 八丈島の植物がどういうものか、どのようにやってきたかなどの歴史を知ることができてよかった。
- ◆ 八丈島は自分が思っていたよりもすごく大きいということを知って一番驚いた。
- ◆ 八丈島の価値ある自然を知って八丈島がさらに好きになった。
- ◆ 八丈と名の付く動植物の存在を知って驚いた。嬉しかった。新種の生物など見つけてみたいと思った。

【成果と課題】

八丈島に動植物がたどりつくには三つのW（wave, wind, wing）である海流、風、鳥によるものであることを知ることができた。このことにより、生徒が知っている動植物がどのようにたどりついたか考察し、思考を深めることができた。また、八丈島の厳しい自然環境（日差し、潮風、強風、降水量）の中で独特な進化を遂げてきたことを知り、動植物の視点から八丈島と他の地域を比較して、考えを深めることができた。さらに、八丈島の固有種や、特徴のある動植物について知ることができたことで、八丈島に対する興味・関心や郷土愛を深めることができた。

八丈島の自然分野の授業を通して知識を身に付けるだけでなく、考えを深めることができた。また、地域の価値についても気付くだけでなく八丈島の未来を築く、主体的な立場になり、保存継承を行う意識の醸成と、能力を育てていく必要がある。

4. 八丈島の伝統・文化

【実施日時】

- ◆ 7月12日（金）

【目的】

- ◆ ユネスコの世界危機言語の一つとなっている八丈言葉の価値について知る。
- ◆ 八丈言葉の系譜について知ることで、八丈言葉の大切さを知る。
- ◆ 八丈言葉を活用できるようになることで、自身が普及の一端を担う意識を涵養する。

【講師】

- ◆ 八丈町教育委員会（運営指導委員） 茂手木 清 講師
- ◆ 八丈町教育委員会（運営指導委員） 林 薫 講師

【使用教材】

- ◆ プリント・スライド（別添）

【内容】

- ◆ 茂手木清講師、林薫講師をお招きし、八丈言葉の講演を行った。 八丈方言の講演会の様子

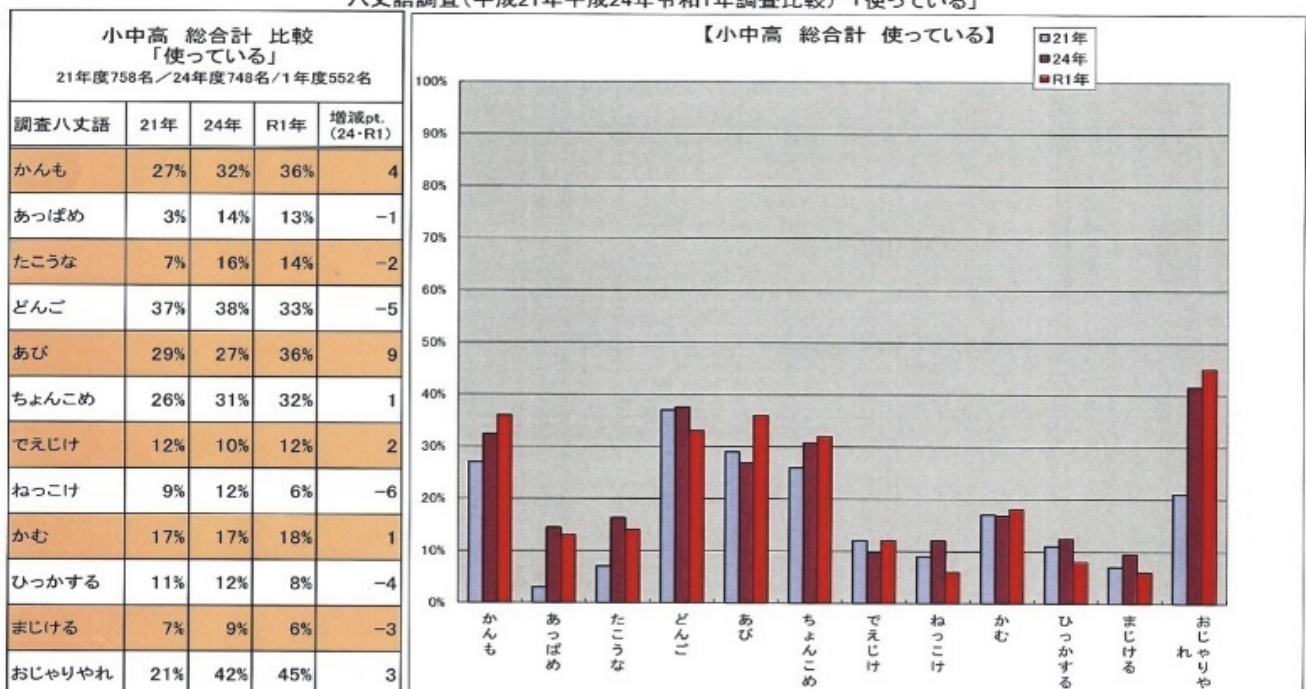


【成果と課題】

- ◆ 八丈言葉は耳にしているも、日常で使用しなかったり、中身を深めたり、実践に結びつけたりするような学び方をしていない生徒が多かったと思われる。今回の授業では、八丈言葉の貴重さや存在が危ぶまれていること等への理解を深めたり、日常的に使用できる八丈言葉を再確認したりすることができた。

八丈言葉を実際に活用し、高校生の世代がこれから保存、存続させるということ、多くの場面で伝えていく必要がある。今回の講演では講演を聴講するという形になってしまったが、講演の内容をもとに、現代で八丈言葉を活用するにはどのような策が必要かを考える授業展開とすることが一層求められる。次年度以降も、さらに工夫した展開と発展させていく。

八丈語調査(平成21年平成24年令和1年調査比較)「使っている」



出典：八丈町教育委員会

5. 八丈島の歴史

【実施日時】

◆ 5月13日 3時間目

【内 容】

八丈島についての歴史の大きな流れをつかませることを目的に授業を行った。生徒には穴埋め式のプリントを配布し、パワーポイントで要点を説明しながら穴埋め作業を行わせて後最後に確認のミニテストを行った。

◆コラム 八丈島の伝説◆

①秦の[1. 徐福]伝説

⇒八丈島が女護島(女だけの島)と考えられるルーツに。

女のみが住むという伝統を打ち破ったとされるのが、伝説上では[2. 源為朝]。

②八十八重姫(優婆夷大神)伝説

⇒日本神話に由来。天照大神に国譲りした大国主命の息子である事代主命は、妃8人を伴い伊豆諸島を治めた。

その一人である八十八重姫は子とともに八丈島にわたり、島を開拓、統治したという伝説。

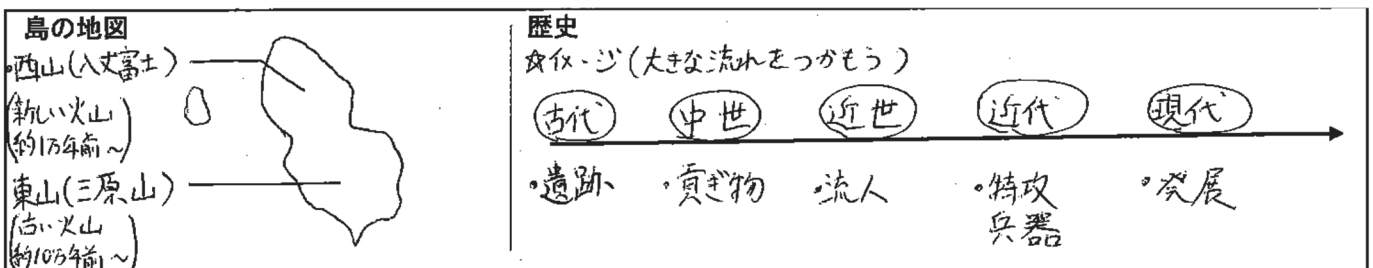
③丹那婆伝説

⇒かつて八丈島に大津波が襲い、一人助かった女がいたという伝説から。この女が丹那婆である。

丹那婆は身籠っており、男児を産み、その子が成人後に母子交合して子孫を増やしたという。

穴埋め式プリントの一部(イメージ)

初めに八丈島の各地の構成年代や大まかな時代の特徴を説明し、八丈島を語る上でのキーワードを時代順に示した(下イメージ図)。



古代の歴史について、坂上地区で発見された湯浜遺跡(右上写真…出土した土器)、倉輪遺跡(右下写真…出土した遺体)を紹介した。島の中学生が発見のきっかけになったこと、これらの遺跡の発掘により八丈島に縄文文化がもたらされていたことが証明された点を強調した。八重根遺跡、火の瀉遺跡については触れる時間がなかった。



また、平安時代に保元の乱で活躍した源為朝が八丈島に流れ着いた伝説について触れ、島内ではいまなお「為朝神社」「為朝の凧」などで源為朝の痕跡を見ることができることを紹介した。かつて八丈島が「女護ヶ島」として知られており、ショメ節としても残っていることと、島に男を招き入れたのが源為朝であるという伝説についても紹介した。



中世史では、他を抑えた北条氏によって八丈島が治められたこと、代官が置かれ現在の長戸路屋敷のルーツになっていること、黄八丈をはじめとした織物を納めていたことを説明した。

近世史では、関ヶ原の戦いの簡単ないきさつを口頭で述べた後、宇喜多秀家（右写真…島に設置されている秀家像）が公式な流人第一号として島に流されたことを説明し、以後 1,900 人程度が流され“流人の島”としての認識につながっていくことを学ばせた。また、有名な流人として、近藤富蔵の八丈実記も紹介し、その内容の確実性に疑問の声が上がっていることなども触れた。



宇喜多秀家と豪姫の像

さらに、流人の記録などからわかる八丈島の飢饉の深刻さにも触れ、新島からもたらされたサツマイモが人々を救ったこと、碑が大里に存在することなどを学ばせた（右写真…八丈島甘諸由来碑）。



八丈島甘諸由来碑

近代史では、特に昭和期の戦争関連の知識を学ばせた。八丈島に配備された回天、震洋といった特攻兵器や東光丸（右下写真…東光丸）の碑などについて写真資料を確認させた。

現代史では伊豆諸島が一時的に GHQ の統治下におかれたこと、戦後のリゾートブームの中で八丈島が“東洋のハワイ”と呼ばれるなど人気観光地になっていったことなどについて触れた。



東光丸

最後に全 7 問のミニテストを実施した。近くの席の生徒と交換させ相互に採点させた。

ミニテスト例

①1962 年、三原中学校の生徒が磨製石器を発見したことで調査がすすめられた遺跡はなんというか。

（答え：湯浜遺跡）

【成果と課題】

“黄八丈”、“源為朝”、“宇喜多秀家”といった島にまつわる語句は耳にしても、それらを体系的に結びつけるような学び方をしていない生徒が多かったと思われる。今回の授業で“八丈島史”という体系的な流れを理解させたのではないかと思う。授業の最後に実施したテストも高得点の生徒が多く、理解度は高かったと思われる。

八丈島の歴史は批判的検証がなされていない部分もいまだ多く、授業をするうえで基となる“教科書”がないため授業準備に苦労した。「八丈島史」や小学校の副読本である「わたしたちの八丈島」は大いに参考になる文献であった。八丈島について書かれた本は多いが、近藤富蔵の八丈実記を史実として扱っているものも多く、上記の通り八丈実記の検証が不完全であることから、どこまでを正しいこととして扱っていいかは授業者次第となってしまう。逆に言えば研究の余地が残されているともいえるので、歴史に関心のある生徒と共に基礎文献の読み込みなどができたら、大変価値のある活動となるだろう。



授業の様子

6. フェノロジーカレンダーの制作

【実施時期】 第1学年 1・2・3学期（7月～2月）

【目的】

- ・フェノロジーカレンダーの制作を通して、自然と人間社会のつながりについて理解する。
- ・グループでの制作を通して、グループ活動の意義について理解する。
- ・成果を形にし、発表することにより生徒の思考力・表現力・コミュニケーション能力を育成する。

【内 容】 ～八丈島の価値に気づき、島内外の人に伝える～

1学期の学習において、島の自然、歴史、文化、産業について学習をし、八丈島の価値について学んできた。その知識を生かし、フェノロジーカレンダーの作成を通して、地域の有識者へのヒアリングや八丈島の知識を横断的にまとめることにより、八丈島のさら更なる価値を発見すると共に、地域課題に気づかせる。

【授業の様子】



授業の様子



中間報告（1学期）



中間報告（2学期）



講師を招いてアドバイスをいただく